

かけはし

岩国市立錦中学校だより 第21号

令和2年(2020年) 3月11日(水)

<https://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/>

本年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来賓・在校生のいない異例の卒業式でした。多くの方に、ご心配をおかけしました。

『卒業生へのエール』 卒業式式辞要約



卒業証書授与のようす

校長 秋本 泰宏

9名の卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。わずか一年という付き合いでしたが、みなさんから、たくさんの思い出をプレゼントされた一年でした。

生徒会活動では、「おかめは いいあいさつ」というキャッチフレーズを作り、校内の掲示を行い、あいさつの向上をめざしました。また、10月には、あいさつについて学校運営協議会委員の大人の方に混じっ

て意見を交わし、堂々と発表する姿を見て、感動したことを覚えています。

連日の猛暑の中で帽子をかぶり、準備を進めた体育祭。「全力 こぶしをかかえて燃え上がれ」の言葉通り、ゆっくり休む時間も無く、それでもグラウンドいっぱい、全校ダンスや応援でみなぎるパワーを発揮してくれました。

体育祭の熱い余韻が残る中、「KYO~こころで響け、熱く響け~」をテーマにしてスタートした文化祭の準備。短い時間の中で準備したにもかかわらず、完成度の高かった学年劇『色づいた「さよなら」』。『「さよなら」にはね、「ありがとう」の意味も含まれているんだよ』というハルの最後の台詞には、まさに今日の今の気持ちと重なりそうです。

全員で全ての行事に全力で取り組みながらも、朝学習の凜と張り詰めた静寂さとコツコツと響くシャープペンシルの音は、いつも目標を見失わず、「受験」に立ち向かって、黙々と学習に取り組む3年生を象徴するような、毎朝の教室の光景でした。

今この時を迎え、こうした数々の輝いていた時間が、色鮮やかに、思い出されることでしょう。しかし、時計の針は、錦中が母校となる瞬間に向かって、時を刻んでいます。

刻々と過ぎていく時間の中で、しっかりと心に刻み込んでおいてください。みなさんを待っている次のステージに、力強く一歩を踏み出すために。

錦中の卒業生として『個性で染める錦の絆』(令和元年度生徒会スローガン)を大切にしながら、多くの人と出会い、多くのことを学びながら経験を積み重ね、ふるさとを愛し、ふるさとの未来を担う若者に成長してほしいと強く願っています。

これから先、よいときばかりではなく、時にはつらいことにも出会う卒業生のみなさんが、3年間歌い続けた『美しい約束』にある、「どんなに冬がたつらくても、どんなに夜が長くても、終わらない冬はない、終わらない夜はない」という歌詞を信じて、それぞれの人生という道を、錦中での思い出をエネルギーに、力強く歩み、胸の張れる未来にたどり着くことを願って、卒業生へのエールといたします。

送 辞 (要約) ～在校生代表 S. Sさん～

「剛毅木訥」。まさにこの言葉にふさわしい皆様でした。

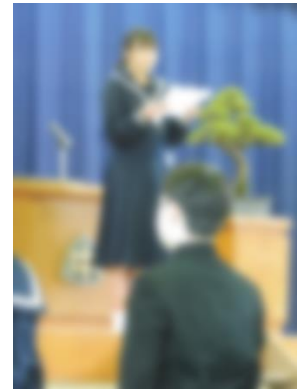
体育祭。ダンスの練習で分からない振り付けがあれば、理解できるまで、何度でも丁寧に教えてくださいました。応援の練習では、根気強く声かけをしたり、励ましたりしてくださったおかげで、私達も頑張ることができました。

合唱祭。パート練習では的確に指示を出し、誰よりも大きな口を開け、一生懸命に歌っておられました。「先輩が、そばで歌ってくれる」と思うと、本番も落ち着いて練習と変わらぬ合唱ができました。

部活動や委員会でも、いつも真剣に取り組んでおられる姿をよく目にしました。その背中が、いつもより何倍も大きく感じられました。

振り返ると、いつも明るく、どんなことにも全力で取り組んでおられた皆様の姿が、印象深く思い出されます。日々の学校生活の中でも、たくさんの悩みがあったことと思います。しかし、そのような様子を1mmも感じさせないくらいの笑顔で、明るく接してくださいました。私達も皆様のよう、強く優しい人になりたいと思います。

私達の先頭に立ち、よきお手本であった皆様の背中が、私達のあこがれであり、目標でした。これからも自信をもって、夢を追い続けてください。錦中学校から、エールを送り続けます。そして、今まで多くの先輩方が築き上げられてきた伝統ある錦中学校を、責任をもって継承し、さらに発展させていくことを誓います。



送辞のようす

答 辞 (要約) ～卒業生代表 D. Hくん～

谷川俊太郎の『春に』という詩の一節にあるように、私達は今まさに、この錦町から芽吹き、新しい世界へ花開こうとしています。

体育祭。やるべきことが本当にたくさんありました。ダンスは想像していたよりもはるかに難しく、本番までに間に合うのか不安でした。応援合戦では、自分たちがやりたいことを押し付けるのではなく、一緒に楽しむことを意識しました。

文化祭。限られた時間で複数の仕事をこなしながら、学年劇に取り組みました。短い練習時間の中で、心に残るものを作るために、修正点を見つけ、改善を重ね、本番では自信をもって演じることができました。

岩国市・和木町中学校合唱祭。休み時間を削ってひたすら練習を続け、シンフォニア岩国で心に響く素晴らしい合唱を披露することができました。

先生方へ。様々な場面で時に厳しく、時に優しく指導してくださいました。先生方に支えられ、心も体も大きく成長することができました。

1, 2年生へ。「小規模校だから出来ない」のではなく、「小規模校だからこそ出来る」ことがあります。錦中学校の良さを、これからも守り、育てていってください。

両親や家族へ。心配してくれていると分かっているけど、反抗的な口をきいてしまうこともありました。気恥ずかしくて、面と向かって言えませんが、本当はいつも感謝しています。いつかきっと立派な大人になって、あなたたちの誇りになります。

3年生へ。明日から別々の道を歩んで行くけれど、どんな困難も一緒に乗り越えてきた僕たちの絆は、一生の宝物になると思う。この絆を心の支えに前に向かって歩いていこう。

これから先の人生には、幾多の試練が待ち受けているかもしれません。しかし、この錦中学校で学んだ、仲間と協力して成し遂げる喜び、積み重ねた努力から生まれる自信、新しいことに挑戦する勇気。それらがあれば、どんな困難も乗り越えていけるはずです。



答辞のようす